

平成27年度 第2回小田原市地域子育て支援拠点事業等事業者選定委員会概要

- 1 日時 平成28年1月21日(木) 午後1時15分～5時
- 2 会場 小田原市役所4階 第3委員会室
- 3 出席者
委員 奥山委員長、田近副委員長、加茂委員、日比谷委員、北村委員
事務局 飯田子育て政策課長、早川子育て政策係長、杉本子育て政策係主査
- 4 配布資料
 - ・ 次第
 - ・ 小田原市地域子育て支援拠点事業等事業者 応募者一覧
 - ・ タイムスケジュール
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容
 - (1) 委員長あいさつ
奥山委員長から挨拶を行った。
 - (2) 事業者選定の進め方について
事業者選定にあたり、事務局から説明を行った。
 - (3) 応募事業者のプレゼンテーション及びヒアリング

No.1 社会福祉法人 小田原市社会福祉協議会

(ファミリー・サポート・センター)

プレゼンテーションを実施

【ヒアリング内容】

奥山委員長 これまでの取組の中で課題として捉えていること、またその課題を踏まえたこれからの5年の解決策をお聞きしたい。

事業者 課題は緊急対応。
依頼会員と支援会員をマッチングするが、急な場合には支援会員が対応できない時がある。特にそれが命にかかわるような場合だと、当協議会アドバイザーが支援会員となり、支援活動をするのが最近の事例としてある。その場その場で乗り切っていくのではなく、システム的に有効な展開ができたらと感じている。宿泊等については、どれ位のニーズがあるのか調べていきたい。毎年年度末に更新票を各会員に配布し、今後の活動についてお聞きしている。更新票に宿泊等に関する内容を盛り込み、実施してみようと考えている。

加茂委員 全体的に支援会員の年齢層が高く、介護の問題を抱えている方もいる。支援会員の若返りについて何か方法はあるか。

- 事業者 支援会員の中で中心となって活動しているのは、40～50代。中には60代の方も多くいる。社会福祉協議会だからこそという点では、他事業との連携である。ボランティアセンターの部門があり、多くの市民が登録していて、比較的学生や主婦が多く登録している。この方たちにも積極的に働きかけをしていければ、若い方たちが支援会員として協力してくれる可能性があると考えている。
- 日比谷委員 新規会員の登録をするにあたり、試行的な土曜日の登録会の開催と提案があるが、会場としてはおだわら総合医療福祉会館になるのか。各地域に出向くことはあるのか。
- 事業者 登録については、子育て支援センターで登録会をすでに実施している。その場で登録される方も数多くいる。必ずしもおだわら総合医療福祉会館の事務室というわけではなく、色々な場面を捉えて会員を増やしていきたい。
- 奥山委員長 働きたいという保護者のニーズが高いと思う。ニーズという部分では、どの位の割合で就労されている方と在宅の方とのニーズがあるのか。また、就労される方が増えてくると、その対応も必要になってくると思う。保育所の入所と登録会の関係についてもこれから工夫が必要なところだと思う。
- 事業者 就労の希望等の統計的なものは把握していない。
平成26年度の活動内容の内訳としては、習い事の援助が約890件で最も件数が多かった。保育施設の送迎及び放課後児童クラブ終了後の預かりを合わせると約1,700件。ニーズとしては高い。
- 加茂委員 現在育児休業中だが、これから就労していくにあたり依頼は重いものが増えていくと思う。支援会員の体力がないと厳しいと思う。自分には3人の子どもがいるが、そうした方のニーズに対して、どのように把握して対応していくのか。
- 事務局 社会福祉協議会としては、できる限り依頼会員のニーズに応えられるように日々行っている。委員のように依頼をする方が今後増えてきた場合に、本来であれば支援会員を充実させ対応していくが、もし支援会員だけでは持続できない場合は、地区社会福祉協議会の生活応援隊のサポーター等の地域にある資源を活用するなど、連携を図りながら、最終的には依頼をされた方が、安心して地域で生活できるような環境づくりをしていきたい。

No.2 NPO法人 ぎんがむら

(ファミリー・サポート・センター)

プレゼンテーションを実施

【ヒアリング内容】

- 奥山委員長 具体的に支援会員を増やしていくために、どのような工夫を考えているか。

| | |
|-------|--|
| 事業者 | 地域子育てひろばを運営している主任児童委員と連携ができるようになったり、子育て支援センターでもボランティアが増えてきた。また、私たちは子育て中のママとのつながりが多くある。まずは、地域の中でファミリー・サポート・センターの内容が周知されるように連携を図るとともに、様々な世代を取り込めるようにしていきたいと考えている。 |
| 加茂委員 | 宿泊・緊急時の対応についてどう考えるか。 |
| 事業者 | 今の事例を取り入れながらやっていきたい。新規で応募しているので、課題も沢山ある。できるできると言って大切なお子様を預かって、そこに危険が伴ってはいけない。慎重に捉えながら、本当に必要なサービスが私たちの仕組みの中で広がっていくようにする。まずは私たち団体だけではできないことを見極めながら市としっかり手を組んで、母の声を大切にしながらやっていきたい。可能性はあるかないかといえばあると答える。チャレンジしていきたい。 |
| 日比谷委員 | プライバシーの保護に関するマニュアルはあるか。 |
| 事業者 | マニュアルはある。 |
| 日比谷委員 | 組織として、個人情報に関する資料やファイルなどは、具体的にどのような場所で整理しているか。 |
| 事業者 | 個人ファイルは鍵付きのロッカーで保管している。担当者以外は見ることができないようになっている。 |
| 北村委員 | ファミリー・サポート・センターの事務所は、どこを考えているか。 |
| 事業者 | 現在の場所である、おだわら総合医療福祉会館を考えている。 |
| 日比谷委員 | 色々なところとの連携があるように話を伺った。計画書の中に産前産後家事支援をしている団体との連携とあるが、具体的にどのような団体か。 |
| 事業者 | 産後デューラーという、産後のケアをしたり、食事を作っている団体がある。現在も連携をとっており、家事支援や保育サービスを行っている。 |
| 加茂委員 | 産前産後育児支援は、制度では出産後 12 週までとなっているため、私の場合、一番下の子が 7 か月になり、支援が切れて非常に厳しい状況にある。私が再度求めたら枠外であっても対応していただけるか。 |
| 事業者 | ファミリー・サポート・センター業務の枠でできることであれば、しっかりと応えていきたい。できないことであれば、ぎんがむらが独自で行っているサービスの中でご利用していただけるような形をお勧めしたい。 |
| 奥山委員長 | ファミリー・サポート・センター事業は、6 割 7 割が就労する保護者の方で、保育所や放課後児童クラブ等の送迎が多い。子育て支援センターに来られている方とは違う層の方々が対象となる可能性がある中でどう考えているか。また、保護者のニーズを把握するのは得意なイメージがあるように感じたが、預かってくれる方の方針というか見通しについてはどう考えているか。 |

事業者 自分の責任の下でけがをさせてしまったらというような不安や、短時間での預かりと自分の生活との兼ね合いなど、支援したいのだけどどうしようと思っている方が多くいる。そのハードルを越えられるか越えられないかの部分で私たちが一緒になって不安や悩みに寄り添っていく。それができなければ掘り起こしはできないと思っている。仕組みに対してきめ細やかなアドバイスをしていきたい。

No.3 有限会社 ぎんが邑R I V総合研究所

(いずみ子育て支援センター)
(こゆるぎ子育て支援センター)
(おだびよ子育て支援センター)

プレゼンテーションを実施

【ヒアリング内容】

奥山委員長 どのセンターも終了時間が午後 3 時 30 分。その後の時間の使い方であるが、その日の振り返りなどをスタッフ間でどのように行っているか。

事業者 活動の記録とその日にあった相談記録を整理している。また、毎日同じスタッフではなく、4人でまわしているのので、この活動記録を使ってスタッフ間で情報の共有をしている。

日比谷委員 先ほどのプレゼンテーションと同じ方がプレゼンテーションを行ったが、NPO法人ぎんがむらと有限会社ぎんが邑R I V総合研究所は法人として違いはあるのか。

事業者 違いはない。
10年前に有限会社を設立し、子育て支援事業をやってきた。現在受託している子育て支援センター事業は有限会社で実績を積んできているので、子育て支援センター事業は有限会社で応募させていただいた。NPOについては、お母さんの就労支援であったり、お母さん自身も子育て支援活動に参加してもらいたいという思いがあり、地域に根ざした取り組みができるようにと思い、2年前に設立し、活動をしている。事業を分けられるものはNPOに移行した。

日比谷委員 こゆるぎで二宮町との連携とあるが、書類上はいずみにも掲載がある。いずみでも二宮町と連携する必要性はあるか。

事業者 市のほうで二宮町との連携をしており、子育て支援センター全体として一緒に勉強会などを行っている。こゆるぎは二宮町に隣接しているので、利用者が多いが、車で移動ができるお母さんが多いので、これから二宮町や隣接する自治体の支援センターの情報を把握しながらやっていきたい。

加茂委員 ママの中から協力者を得るというのを強く持っているように感じた。いずみは幅広い年齢層が来ているようだが、こゆるぎやおだびよで求められている協力者とは違う協力者になるのか。

- 事業者 様々な問題意識ということで、お母さんの方から声が上がっているものもある。防災に関しては、城北タウンセンターいずみで活動している経緯もあり、自然に防災の話聞ける取り組みをしてきた。お母さんたちからの要望と、地域の方からもやりたいという声がたくさんある。おんぶやだっこの仕方、地域の中で学童保育を開きたいなど、その声をひろえるような形でアドバイザーは関わっていききたい。プログラム化するのではなく、ママの声の中でニーズの高いものについてテーマトークなどという形で開催していききたい。
- 田近副委員長 他のセンターでは、土曜日開催について提案がなされているが、こゆるぎはニーズは少ないのか。
- 事業者 もともと請け負った枠が火・木・金曜日だった。土曜日のニーズが少ないわけではない。
- 加茂委員 開所時間について方針があったらお聞かせいただきたい。
- 事業者 午前 9 時にはスタッフは勤務している。不特定多数の利用者があることから活動の環境整備やおもちゃなどの清掃に時間をとっているため 10 時開所としている。
- 加茂委員 相談したい場合は、午前 10 時から午後 3 時 30 分までとなるのか。
- 事業者 相談機能については、午前 9 時から午後 5 時まで実施する。

No.4 株式会社 明日香
(いずみ子育て支援センター)

プレゼンテーションを実施

【ヒアリング内容】

- 奥山委員長 スタッフ配置について、一日当たりの勤務時間が午前と午後で分かれている。シフトを組んで別の方が勤務するというのか。配置についてもう少しお聞きしたい。
- 事業者 色々な人の配置を想定している。たくさんの人に関わってもらい、色々な意見を出し合ってやっていききたい。例としてあげたが、責任者は一日を通して勤務することも想定している。
- 日比谷委員 神奈川県内で子育て支援センターを運営しているか。
- 事業者 神奈川県内ではない。
- 日比谷委員 4 つの子育て支援センターがある中で、いずみに応募した理由は何か。
- 事業者 小田原市立病院の近くであることや、保育資格を持つスタッフの居住地、そしてスタッフの意見を参考にいずみを選んだ。
- 加茂委員 お母さんの中からイベントの協力者を募ったりするような考えはあるか。具体的な案があればお聞かせいただきたい。

- 事業者 地元の方の知恵を借りたいと思う。イベントも参加型にしていきいたいと思うし、今現在あるサークルもたくさんあるので、その皆さんと協力していくことをまず考えていきたい。具体的には、埼玉の方では、企業とタイアップしながら行っているイベントがある。面白いところでは、寝相アートなどを行っている。
- 奥山委員長 子育ての日常というのも大事な視点だと思う。イベントに参加して楽しいと思うことも大事だが、保護者のエンパワーメントのこと、利用者をお客さんにしないということについて、どう考えるか。
- 事業者 いつでも行ける環境、ここに行けば何とかなるかもと思ってもらうことが大事。個々の状況に応じて、しっかり話を聞くことは、イベントの前に基本だと考えている。
- 加茂委員 開所を午後4時までにした理由をお聞かせいただきたい。
- 事業者 幼稚園が終わってからでも来てもらえる等、夕方忙しい時間だとは思いますが、たくさんの方に利用してもらえると考えた。

No.5 学校法人 三幸学園
(マロニエ子育て支援センター)

プレゼンテーションを実施

【ヒアリング内容】

- 奥山委員長 お母さんの中でも課題を抱えたマイノリティの部分にも力を入れていきたいとあったが、具体的に考えていることはあるか。
- 事業者 神奈川県と協力して「赤ちゃんひろば」を展開している。試行錯誤の最中だが、主任児童委員の力もお借りして実施している。ひろばに来る人は第一歩を踏み出しているが、そこに来れない人に対しての支援についてを一緒に考えている。乳児をかかえて、なかなか家から出れないお母さんに働きかけていきたいと考えている。
- 日比谷委員 災害時の対応について、最低3日分の水分・ミルク・おむつ等の育児用品を備蓄すると提案があるが、提供できる用意があるということか。
- 事業者 予算の中に入れて考えている。
- 日比谷委員 今まではなかったが、今後は考えているということか。
- 事業者 考えている。
- 日比谷委員 学校法人三幸学園で子育て支援センターを運営している実績はあるか。
- 事業者 学校法人として他の市町村との収益事業は行っていない。
- 加茂委員 働く女性に関して、今後保育に関する情報提供など力をいれてもらえるか。

- 事業者 年間に数回、働く女性セミナーを実施する。働く女性が対象なので、土曜日などに開催することを考えている。
- 加茂委員 子どもの貧困について考えていることはあるか。
- 事業者 生活にうまく適応できていない人達への支援について、具体的に何かをやるということはないが、その方達を支援する人達を対象としたセミナーは実施した経緯がある。発達に問題を抱えた子どもへの育ち、その親たちが集まった親の会などを実施した。今後も子どもの貧困について考えている方を講師として会を実施することを案の一つとして考えている。
- 奥山委員長 土曜日を月に一回トライするとのことだが、まわりに大きなショッピングセンターがあるということで、調整しなければいけない部分があると思う。その中で土曜日に開催することは、さらに力を入れていきたい部分があるのだと思うが、そのあたりを教えていただきたい。
- 事業者 昨年、働く家庭を支援するということで、父親母親子どもが参加する料理教室を土曜日に開催した。とても良かったとの感想をいただいた。月曜日から金曜日までに開催しているイベントはあるが、働いているなどの理由で残念ながら参加できないご家庭のために土曜日に開催し、提供していきたい。

(4) 審査

非公開

(5) その他

飯田子育て政策課長が報告書の作成について説明を行った。

閉会